

# いのち・食・農を原点に貫き

小泉内閣のときの2005年、障害者の負担を増やす障害者自立支援法案がだされました。私は、テレビ中継される参院予算委員会で質問しました。質問時間は9分間です。

食費も切り詰めて生活している障害者の実態を示し、「障害者のみなさんが、逆に自立を阻害するところぞって批判している。この声をどう受けとめるのか」と小泉純一郎首相をたどりました。首相から「まだ不十分な点もあり改善すべき点は改善していかなくてはならない」という答弁を引き出しました。

## 届かぬ声代弁

質問後、「私たちの届かない声を代表して質問し、自分の思いをそのまま聞いてくれて嬉しかった」という電話がたくさんかかってきました。短い質問時間でも、国民が言いたい、聞きたいけれども届かない声を面と向かって政府につけることが大事なんだと改めて思い知

らされました。

TPP(環太平洋連携協定)についていえば、国会論戦と国民の運動が一体になって世論を広げてきたという実感があります。

菅直人首相がTPP参加を持ち出したときには、TPPの本質を国会論戦で明らかにしながら、さまざまな運動団体とも共同を広げてきました。世論を広げるためのシンポジウムが全国各地で行われ、あちこち行きました。

国会論戦では、TPPによって受ける影響や打撃をできるだけリアルに告発していく。そのなかで農林水産業、地域経済、食の安全、国民の暮らしにかかわる問題などを明らかにするよう心がけてきました。

## 安倍首相と論戦

安倍自公政権になってからの初論戦もTPP交渉参加問題です。2月19日の参院予算委員会では、自民党が総選挙公約に掲げた「聖域なき関税撤廃を前提にする限り交渉参

加に反対する」「食の安心安全の基準を守る」などの「6項目すべてを守るのか」と首相をたどりました。安倍晋三首相は「国民との約束はしっかり守っていく」と答弁せざるをえませんでした。しかし、舌の根の乾かぬうちに、安倍首相はオバマ米大統領との会談で、TPP交渉参加へ大きく踏み出しました。

国会で論戦した後、農業団体の人の話を聞くと、テレビ中継でなくても、インターネットでかなり見ているんですね。「非常にスッキリした」「わかりやすくやってくれてよかった」などの反応がピンピン返ってきました。

ことしに入ってから、JA(農協)、漁協、森林組合や農業委員会の全国組織・全国農業会議所を訪



埼玉県のコメの高温障害の実態を農家から聞く紙智子議員(左から4人目)=2012年10月、加須市

# 夕焼けの稲刈りが原風景

私は1955年、札幌市郊外の農家に4人兄妹(兄3人)の末っ子として生まれました。

家族経営の農家で、米、バレイシヨ、麦などの畑作、白菜、キャベツなどの野菜、リンゴ、なしなどの果樹のほか馬、羊、にわとりなどの家畜も飼っていました。ですから、子どものころは農作業をよく手伝っていましたね。

稲刈りのとき、太陽が落ちるまでやるわけですが、夕焼けでそこから真赤に染まる。これは私の心に残る原風景です。田植えのときに足の裏に触れる、あの軟らかな土の感触も忘れられません。

## バレー部漬け

中学からバレーボール部に入り、朝から晩までバレーボール漬けでした。短大1年のときは実業団の人といっしょにチームをつくり、全道大会で優勝し、全国大会まで行ったこともあります。

短大では、学生自治会の運動にも加わりました。学費値上げ反対の運動や、ピアノの台数が足りない、学生食堂のイスが少ないなどの勉強条件の改善の運動にとりくみました。

署名活動に初めて取り組んだのも、このころです。物価値上げと学費値上げ反対の署名でした。

短大近くの団地に署名行動に行くのですが、最初は心臓がドキドキ高鳴って。「もし出てきた人が怖い人だったらどうしよう」とか、「なんか聞かれて答えられなかつたらどうしよう」とか思いながらの行動でした。でも、戸をたたいて出てきた人に説明すると、多くの人が共感してくれる。「ご苦労さんだね」とカンパをくれる

人もいました。素直に訴え、声に耳を傾ければ道も開かれるということを実感した体験でした。

## 兄の影響を受け

19歳のときに民主青年同盟に入り、20歳で日本共産党に入りました。入党は、兄の影響が大きかったですね。

新聞配達をして学費を稼ぎながら、学生の学ぶ要求を実現させようと自治会の活動をし、共産党にも入党していました。兄の話を聞くうちに、共産党という政党が唯一、日本の政党の中で戦争に命がけで反対した政党だったことを知りました。

そして共産党が、世の中の矛盾がどこからきているのかを解明し、どうすれば変えられるのかという方向性と、必ず変えられるという展望を持っていることに共感しました。私は、自分なりの自覚を持って生きていこうと思い、入党しました。

# 参議院議員(日本共産党比例予定候補) 紙智子さん語る 生い立ち・家族・共産党



日本共産党の参院議員・紙智子さんは、参院比例予定候補として、北関東(埼玉、茨城、栃木、群馬)と北海道、東北を活動地域に東奔西走する毎日です。生い立ちや家族のこと、党との出会い、党候補者・参院議員としての活動まで、縦横に語りました。



紙智子さん(小学5年)。自宅庭で愛犬と

紙智子参院議員を紹介した「しんぶん赤旗」首都圏版(2013年3月2~7日付)から転載しました。

# 「納得した道を進みたい」

学生自治会、民青同盟、共産党に入って活動を始めたころは、ときどき父親と口論になりました。私が「なんで共産党がだめなの」と聞くと、父は「だめだからだめだ」というんです。

「共産党は日本の侵略戦争に反対した唯一の政党でしょ。腐敗したいまの政治に立ち向かっているのも共産党でしょ」(私)、「共産党のいつていることは間違っているとは思わない。だけど世の中の人みんな川の流れて乗って生きている。無理してその流れに立ち向かわなくてもいいじゃないか」(父)——二人の間で議論が延々と交わされました。

## 乗り越えたい

私は、一度きりしかない自分の人生だから自分が納得できる生き方をしたいと訴えました。でも父は「途中で挫折するのではないか」というんです。私は「もしそうであつても、自分でぶつかって乗り

越えたい、納得した道を進みたい」と。

後になってわかったのですが、厳しく反対したのは、苦勞させたくないという親心だったんですね。それがわかってからは父のいうことも、受けとめるようになりました。

母はいつも応援してくれました。母は、自分の経験から、若いときいろいろなことを体験していくことが大事だと思っていたみたいです。

## 父が応援演説

そんな父でしたが、私が1986年、初めて参院選の比例代表候補として立候補したとき、応援演説に立つてくれました。

全国遊説で札幌に入ったとき、北海道の選挙担当の人から「きょうは紙さんの家の近くで演説するからね。お父さんが応援演説に立つてくれます」と聞き、びっくり仰天。行くと、親戚や近所の人たち

が集まっています。

「息子や娘と長い間、いろいろ議論しあってきたけれど、議論しながら子どもたちのいつていることに理があると思っていた。自分は戦争体験者で、二度と戦争はしてはいけないと思っ

ている。いま、中曽根康弘首相の、日本列島を不沈空母化する」というききな臭い発言もある中で、二度と戦争をしないためにも、

娘たちの考える世の中に早くなつてほしい」

こんな感じの応援演説でした。私は、もう涙、涙。コンタクトレンズが流れてしまったんじゃないかと、みんなで宣伝カーの上を探し



参院選に初立候補し、第一声をあげる紙智子さん=86年6月、東京都内

# 初質問 国民の願いを胸に

日本共産党の参院比例代表候補にならないかという話があつたのは30歳のときです。民青同盟中央委員会でスポーツ・文化を担当し、「青年美術展」や「スキー祭典」に取り組んでいるときでした。

## 頭の中真っ白

最初は「ほかにたくさん有能な人がいるのに、なんで私なの」と思いました。1週間悩んだすえ、青年の中で日本共産党を語り、多くの人に理解してもらおう活動ならできると、と考え直して。

でも、最初はほんとうに大変でした。それまで演説なんてほとんどやったことがないうえ、人前で話すのが苦手だったですから。最初の演説は、大阪の「ヤング・ジャンプ集会」という民青同盟の集会でした。

舞台上上がったとたんに、頭の中は真っ白。なにを話すかも全部忘れてしまつて。原稿はあつても目に入らないんです。なんとか話

したとは思いますが、もう、穴があつたら入りたい、と。

以来15年間、多くの方に支えられて、8回の国政選挙で候補者として活動することができました。国民の様々な願いに答え、政治を変えるために精いっぱい力を尽くす。それが共産党員としての生き方だと肝に銘じて、駆け抜けた日々でした。

初当選は2001年7月の参院選です。この年の9月10日、日本初のBSE発生が確認され、大問題になります。翌日の11日にはアメリカで同時多発テロも起こり、国は激震でした。

## のどカラカラ

農林水産委員の私は、中林よし子衆院議員(当時)と一頭目のBSE牛が発見された千葉県に調査に入り、国会にもどつて閉会中審査を要求。20日、初質問に立ちました。

やることなすこと、全部初めて



初質問する紙智子議員=2001年9月20日、参院農水委

です。質問前、農水省から説明を受けました。私が、BSEに汚染された可能性のある肉骨粉(飼料)が、イギリスから90年以降どれだけ輸入されているのか、教えてほしいと聞くと、すごく嫌な顔をして「把握することは困難です」というんです。

一瞬、戸惑ったんですが、「これは国民が聞きたいこと、国会議員は国民の代弁者なんだ」と思い直

して、「答えられないなら答えられないでもいいが、質問では聞きませよ」といきました。質問では農水省は、ちゃんと調べてきて答えました。

緊張で、のどはカラカラです。でも、私の後ろにはたくさん国民の願いがある。そのことを常に頭において質問しなければならぬというのを痛感させられました。